



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2025年1月12日(日)9:30~12:00(曇り)

参加者 一般：4名

指導員：2名

テーマ 冬鳥は来たかなー野鳥 20 種探し

日陰には雪が残る寒い朝でした。

野鳥が多く見られそうな南派川の低水敷のヨシの繁みに沿って歩きました。

この時期ならではのシジュウカラとメジロの混群が枯れたヨシの間を動き回り、上空をカワラヒワの群が飛び、川原の木の梢には、ツグミの 10 数羽程の群が止まっていました。ツグミは周辺にいくつかの群がいて、時折、近くの林に移動したり、戻ったりしてじっくり姿を見せてくれました。例年なら今頃は市街地でも姿が見られるのに、今季は大陸から群で渡って来て、そのまま群で行動しているものと思われます。

今季まだ姿を見ていなかったシメは 2 羽が確認できましたが、これまで見られていたアトリやベニマシコは出現しませんでした。ちょうど 1 年前に川原に生えていたアキニシなどが大規模に伐採され、餌となる実が減ったことが影響しているのかもしれない。

南派川の水面にはカワアイサが 10 羽程浮かんで流れを下っていました。渡って来ているはずのカモ類やオオバンの姿はありませんでした。それでも、確認できた野鳥の種数は 22 種ありました。過去の 1 月の記録は、22 年が 21 種、23 年が 18 種、24 年が 23 種で、今年も例年並みの種数でした。

野鳥を観察していた付近の川原には土を盛り上げた新しいモグラ塚がたくさんできていました。冬でも地中は暖かいのでしょうか、モグラはトンネルを掘り進めているようです。

堤防道路の近くでトベラの実が裂けて赤い果肉が出ていました。よく見ると黒い虫が何匹か付いていました。こんな寒い時期にも動き回っているんですね。

昨年までは 1 月には咲き始めていたミヤマウグイスカグラは、蕾がピンクに色づき始めたところで、花はまだ少し先になりそうです。トサミズキの蕾も膨らんで黄色になり、春の近さが感じられました。

午後から木曽川橋下流のコハクチョウが来るスポットを覗いてみましたが、姿はありませんでした。対岸(右岸)側にキンクロハジロが 50 羽程いただけで、毎年ここで多く見られたオオバンの姿もありませんでした。今季は例年と渡り鳥の様子がずいぶん異なっているようです。(報告：齋竹)



川原でツグミの群を観察中

<その他観察できたもの>

鳥：トビ、オオタカ、コゲラ、キジバト、ヒヨドリ、エナガ、アオジ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハクセキレイ(声)、シロハラ(声)、ジョウビタキ(声)、ウグイス(声)、モズ(声)、アカゲラ(声)

虫：ヨコツナサシガメ(幼虫)

花：サザンカ

蕾：ソシンロウバイ



川原にたくさん並んだモグラ塚



3つに裂けたトベラの実



トベラの実にいた虫



芽鱗がとれたトサミズキの花芽